

Title	Robert Develin, Athenian officials, 684-321 B.C.
Sub Title	
Author	真下, 英信(Masimo, Hidenobu)
Publisher	三田史学会
Publication year	1990
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.59, No.4 (1990. 12) ,p.149(501)- 152(504)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19901200-0149

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Roman Republic (1951—1952) であった。これは、ローマの役人名を年代順に載せて関係資料を併記した上

に、簡単な説明と基本的文献を付したもので、今日でもローマ史研究に不可欠な書である。彼は、アテナイの歴史研究においても同様な仕事がなされるべきであると考えた。そして、この思いを実行し始めてから実際に十年目に完成したのが本書である。従って、その構成は基本的に上述の *Magistrates* に類似している。

ところで、アテナイの版図は共和制末期のローマよりも狭小ではあったが、役人の職種とその数はローマのそれを遙かに凌駕していた。アリストテレスの記述によると、デロス同盟の全盛期、アテナイの国内には毎年約七百人の役人が任務についていた (AP. XXIV. 3)。

これらの役人の役職名については、本書の序論で簡単な説明がなされているが、その種目数は、区々の地方役人を除外してもアルコンや将軍職など周知の官職を始めとして実に七十にならんとする程である。序論を一読しただけでも、アテナイにいかに多くの役人がいたか人は理解出来るであろう。

前書きによると、著者がかかる書の執筆を企画した動機は、T. R. S. Broughton の *The Magistrates of the*

すべての人々が個々人を支配する一方で、個々人がすべての人々を支配し、特別の経験を必要としない限り、役人は抽籤される点にある (*Pol. VI. 2. 1317 b 20 ff.*)。民主制国家のアテナイにおいても、事実、多くの役人が所定の期間ごとに選出されていた。かかる実情についても、序論を一読すれば人はアリストテレスの言葉を首肯するに相違ない。

さらに、名は同じであっても、今日の民主制と古代アテナイのそれは決定的に異なり、後者にあっては徹底した役人の任期制と選挙制の結合の上に民主制が機能していたことが分かる。

従つて、いつ、いかなる官職に誰が就任したのか、議案の提案者は誰か等を知ることは、アテナイの民主制の運営の実態と特質を知る上に不可欠な要素となる。

しかも、民主制下のアテナイにおいては、抽籤や掣手によつて毎年(*e.g.* アルコン)、あるいは毎月(*e.g.* 部族単位ではあるが、プリュタネイス)、職種によつては毎日(*e.g.* 評議会の議長)あるいは四年ごとに新しい役人が選出されており、その数は厖大なものとなつた。

本書の著者は、かかる多くの役人、しかも民主制を考察する上に重要な意味を持つ役人名を、碑文や文献資料

を実に丹念に調べ、細心の注意をもつて年代順にリストアップしたのである。その努力はまさに驚嘆に値すると同時に、その成果はアテナイの民主制解明のための重要な礎石として永く報われることになる。

なお、本書の内容や構成については、具体的に例示した方が分かり易いと思われる所以、前四二六／五年の一部を次頁に引用しておくるので、参照されたい。

ハ)のようすに、各年の前半部分は、まず最初に、その年の筆頭アルコン名に始まり、以下その年次に就任した役人名が資料的に知られる限り全てが職種別に記載されていく。そして、人名の末尾には Kirchner の *Prosopographia Attica* (1901—1903) より Davies の *Athenian Propertied Families 600—300 B.C.* (1971) の番号が付されている。次に、関連する碑文番号や文献資料が記載されており、PA や APF の番号と共により詳細な情報を得るためにすこぶる便利で、本書の利用価値を高めている。なお、人名はアルファベット順になつていないので少し不便があつれないので少しお詫びしたい。

後半の “COUNCIL AND ASSEMBLY” と称する部分は、その年次に評議会や民会で可決された法案を全て網羅し、その碑文番号と見出し程度の簡単な内容説明

426/5 (Ol. 88.3)

Archon

EUTHYNOS *PA* 5655

The name is guaranteed from IG i³ 369 (i² 324; ML 72; Fornara no. 134); also Philochoros *FGH* 328 F 128; anon. *vita Thuc.* 8; hyp. Ar. *Acharn.* (alternative Euthymenes); Euthydemus is found at Diod. 12.58.1; Athenaios 5.218b (cf. 450/49); other references IG i³ 468.[6] (i² 368); ?[208] (i² 112). Mattingly wants IG i³ 21 (i² 22) here; see 450/49.

Strategoi

NIKIAS son of Nikeratos of Kydantidai (II) *PA* 10808; *APP* 403f. Thuc. 3.91.1ff.; Diod. 12.65.1ff. (424/3); Athenaios 5.218b. See 427/6 and Fornara, *Generals* 57f. He was sent first to Melos in summer 426, where he could not secure terms, and then went to Boiotia, enjoying success against the Tanagrans. Then he laid waste coastal areas of Lokris.

Envoy

LEOGO[RAS] *PA* 9072

[PL]EISTIAS

IG i³ 61.51 (i² 57; ML 65; Fornara no. 128). Ambassadors to Perdikkas of Makedon.

COUNCIL AND ASSEMBLY

- (i) IG i³ 61 (i² 57; ML 65; Fornara no. 128; SEG 32.8) includes at lines 32ff. a probouleumatic decree of pryt. Hippothontis concerning the Methonians: Grammateus

MEGAKLEIDES of Leukonoion (iv) *PA* 9687

Bouleutes epistates

NI[K]OM[ACHOS] or NI[K]OM[EDES]

Proposer

KLEONYMOS

The secretary is also known from IG i³ 369.5 (i² 324; ML 72; Fornara no. 134); 468.3f. (i² 368), and he was first secretary, as we know from IG i³ 369, which also gives us other prytanies of the year: 2. Kekropis; 4. Pandionis; 8. Akamantis; 10. Erechtheis.

- (v) Thuc. 4.17ff. reports an address of Spartan delegates; but they failed to achieve anything, having received a series of demands in reply:

Proposer

KLEON son of Kleainetos of Kydathenaion (III) *PA* 8674; *APP* 318ff. See also Philochoros *FGH* 328 F 128.

をまず記している。そして、法案成立時に関係した書記、評議会議長、提案者の名が順次示されていく。

次に、碑文の形では伝えられていないが、文献資料によって知られている法令が記載され、碑文の場合と同じ項目が付加されていく構成になっている。この部分を見ると、アテナイ市民が互いに支配したりされたりすることにいかに腐心していたか一目瞭然となる。ここにも、アテナイの民主制の特徴の一つを人は垣間見ることが出来よう。

評者は、本書の全項目を逐一確認検討したわけではないが、誤植や遗漏は極めて少ないようである。人名の索引部の 1663. KLEONYMOS (PA 8880) は PA の「スプリをそのまま用ひてゐるが、8680ふたぬぐれ所で、

1995. MENYLLOS (PA 10061); Boul. 455. は Boul.

457 が正し。いわば、数少ない誤植の一例である。

人名は索引を含めて全てギリシア文字を用いずローマ字化されている。これは恐らく、コンピューターを用いてカードを整理したりした都合上、やむを得なかつた処置かも知れない。だが、この点、かえつて利用にくくなつたとの印象を持つ人も多いのではないか。

これらの不満は、しかしながら、本書にとってもしたる問題ではなかろう。かかる重要な資料を整理した本書は、Kirchner や Davies の書と同様に、ギリシア史に关心を持つ人にとって、今後、長く必需の座右の書となることは間違いない。他方、本書を利用してアテナイの民主制の実態を解明することが、我々読者に課せられた重大な責務であると受けとめられなければなるまい。願わくば、我が国の古典学研究においても、小手先で片づけた論文でなく、じっくりと腰を据えて、本書のような基本的資料の整理集大成や、基本図書の翻訳など（例えば、昨年刊行された村川堅太郎、久保正彰訳『古代ラテン語集成案内』）、長年の使用に耐えられる本が出版される」と期して筆を擱きたい。

(1990. II. 12)